

東映ラボ・テック 新社屋の紹介

長谷川 光司／桐谷 周作

はせがわ・みつし 東映ラボ・テック(株) 常務取締役
きりたに・しゅうさく 東映ラボ・テック(株) 品質管理グループ長

東映ラボ・テック(株)は2025年7月をもって、創業よりフィルム現像・ビデオ・デジタル作業の拠点として東京都調布市国領町に構えていた本社から、同じ京王線・柴崎駅近隣の地 菊野台1丁目へ移転しました。

当社はフィルムメーカー小西六写真工業（現コニカミノルタ(株)）により、自社開発カラー映画フィルム（コニカラー）の

現像を目的として、日本色彩映画(株)の社名で設立されました。その後東映(株)の傍系会社となるにともない東映化学工業(株)、東映ラボ・テック(株)への社名変更を経て、グループ内外からのその時代のさまざまなニーズに応えるかたち



で映像産業の発展のお手伝いをしてきました。

現在ではフィルムに精通したポストプロダクションとして、邦画、洋画、テレビドラマ等さまざまなジャンルの映像作品の制作・配給・二次利用等をカバーしてきましたが、創立75周年を目前に老朽化した社屋を離れ、これからも予想されるさまざまな変化に対応する安定したデジタルコンテンツ・トータルサービスの提供を目的として新天地にて業務を開始しました。新たに各機能を集約した地上4階建て新社屋の概要を紹介します。

敷地面積 : 約 570 m²

延べ床面積 : 約 1200 m²

階数 : 地上 4 階建

構造 : 鉄骨造

業務開始日 : 2025 年 7 月 1 日

■社屋レイアウト

1階：倉庫

甲州街道に面した新社屋1階からは、セキュリティ強化された物流環境のもと、作業現場から直結したス

ムズなデリバリーが可能となっています。全国の劇場へのDCP配送のほか、貴重な往年の名画のフィルムでのデリバリーにも対応。フィルム量産時代から米国メジャーのセキュリティ条件にも対応してきたノウハウをバックに物流体制を整えています。



2階：オフィス、レストア、カラーグレーディング、オンライン編集

2階には、実作業を効率的にコントロールすべく受注窓口である総合オフィスとともに、デジタルデータを取り扱うセクションを集中的に配置。フィルム映像のキズ・ゴミを除去するレストア作業もこのフロアで処理を行っており、フィルムテストからデジタルテストまで、ご要望の品質にお応えしています。



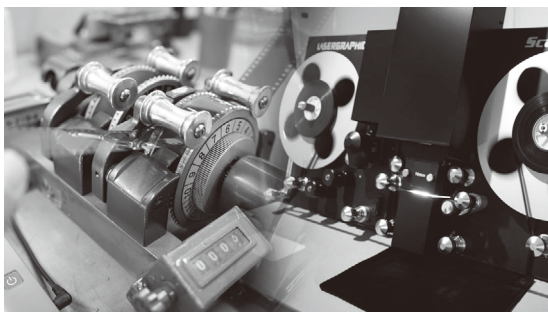
オンラインメインシステムである英 FilmLight 社 Baselight、豪 Blackmagicdesign 社 DaVinci Resolve によるカラーグレーディングは作品の演出意図を尊重した色づくりが可能です。旧作のカラーグレーディングにおいては可能な限りフィルムのタイミングデータに遡って忠実に仕上げることも対応でき、現在のニーズに合わせた HDR（ハイ・ダイナミック・レンジ）に仕上げることも可能で、移転後は従来からの旧作のアーカイブや利活用だけでなく、すでに新作・旧作の HDR 仕上げ作業等でご利用いただいています。

カラーグレーディングや編集立ち合いスペースとし

て、面積各 18 m² のスペース 1 とスペース 2、および 36 m²・13 名まで立会い可能なスペース 3 の三室をご用意しています。

3 階：ネガチェック、フィルムスキャン

旧社屋で行ってきたアーカイブ作業、その始点となるネガチェック室とフィルムスキャナー室を、社屋移転に伴い 3 階のワンフロアに集約しました。これらのセクションは密接に関連する工程であり、作業者が行き来することが容易となり効率化できたことと、集約により酢酸ガス臭気への対策とともに温度・湿度の管理の一元化が可能となりました。取り扱うマテリアルはいずれのセクションも、新撮フィルムや、時を経て遺された貴重なフィルム原版となります。



古いフィルムの利活用には、ビネガー・シンドローム（フィルムの加水分解）による経年劣化、縮みや歪み、硬化・液状化への対応をとまないと。加えて汚れやフィルムスプライス（接合面）に対する手間をかけたケアが必要です。これら旧現像所特有の技術を活用し、念入りに検査・補修することにより初めてフィルムスキャナーでデジタル化することができるようになります。スキャナーはフィルムに負担をかけない走行系を持つ、米 LASERGRAPHICS 社の ScanStation を使用、フィルムから tiff、dpx、mov 等のデジタルデータへ安全かつ高いクオリティに変換します。

4 階：オフィス、ミーティングスペース

4 階オフィスには管理部（経理、総務）が居を構えるとともに、多目的共有スペースを設けています。

■ネットワークとセキュリティ

旧社屋における、建屋ごとに異なる時期に敷設されたネットワークでのデータ転送の整備は長期的に取り組んできた課題でした。

新社屋では、新規設計基幹ネットワークを 100 G で構築することにより、データ転送速度の格段の向上が図れ、4K 以上の映像データをスムーズに転送するこ

とが可能になりました。東映東京撮影所内 東映デジタルセンター [当社事業所 東映デジタルラボ(株)]、および東映京都撮影所との連携がさらなる速度をもって可能となりました。従来から活用してきた HARBOR やクラウド環境を継続利用するとともに、作業環境の利便性を強化しました。

セキュリティ面は、当社事業所の東映デジタルラボおよびラボ・テック営業所（永田町）にてすでに取得している ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）に関する国際規格 ISO27001 に準拠した内容で設計・稼働をしており、皆様からお預かりしているデータの安全を図っています。

■環境への配慮

新社屋では、旧社屋から取り組んできた、省資源化を視野に入れた DX 化を効率よく進めるため、新たなシステムの導入・検討を継続しており、それと並行して総合オフィスをフリーアドレスオフィスとすることで書類の大幅削減に取り組んでいます。

また、館内はすべての電灯で LED を使用、2026 年 4 月より再生可能エネルギーの利用も開始し、これからも環境への配慮を推進していきます。

■最後に

当社は 1951 年、映画フィルム現像を目的に設立され、今年、創業 75 周年を迎えます。1984 年からはビデオ事業を展開、1987 年には赤坂ビデオセンター（2010 年より東映東京撮影所デジタルセンター内 東映デジタルラボ）の設置に至っています。

1995 年にフィルム・デジタル画像処理トータルシステムの端緒となるコダック シネオン・デジタル・フィルム・システム（dpx ファイルフォーマットの起源）を我が国で初めて導入したことは、当社にとっての本格的なデジタルとの関わりとなり、大きな転換期でした。

その後、2001 年には実写長編およびアニメーション長編の全編デジタル撮影・フィルムレコーディングでの全国劇場公開の処理を担当しましたが、四半世紀を経た現在では DCP によるデジタル上映においても大きな役割を担っています。

今後、携帯端末の普及や、AI 技術の影響による社会の変化の中で、デジタルコンテンツそのものの立ち位置も大きく変わっていくと考えられます。これからも皆様と時代に寄り添った東映ラボ・テックで有り続けるために、映像に関する各種サービスを継続して提供して参りたいと思います。

新社屋においてもより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。